

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

東京都豊島区

2021年8月

**SDGs未来都市計画名**

東京都豊島区 SDGs 未来都市計画  
消滅可能性都市からの脱却 ～持続して発展する「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

**自治体SDGsモデル事業**

国際アート・カルチャー都市実現戦略 推進事業

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

東京都豊島区 SDGs 未来都市計画  
消滅可能性都市からの脱却～持続して発展する「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

## (2) 2030年のあるべき姿

本区が目指す持続発展可能な具体的都市像「国際アート・カルチャー都市構想」を実現する。  
本構想は、誰もが多様な文化を享受し、文化の持つ「想像力」と「想像力」で世界中の人を魅了し、人と産業を惹き付ける好循環が生まれるまちを将来像として描いている。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

| 経済                                                                                |                                                                                   |                                                                                   | 社会                                                                                |                                                                                   |                                                                                   | 環境                                                                                  |                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |  |  |  |  |  |

## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

| No | 指標名<br>※[]内はゴール・ターゲット番号                            | 当初値                 | 2021年（現状値）      | 2030年（目標値）          | 達成度（%） |
|----|----------------------------------------------------|---------------------|-----------------|---------------------|--------|
| 1  | フェスティバル/トキョーへの来場者数【8.9】                            | 2019年度 39,147 人     | 2020年度 32,135 人 | 2030年 85,000 人      | -15%   |
| 2  | 池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間【9.1】                             | 2019年 116 分/人・日     | 現状では左記が最新データ    | 2030年 130 分/人・日     | -      |
| 3  | 池袋駅周辺の歩行者数【11.7】                                   | 2017年 112,400 人/12h | 現状では左記が最新データ    | 2030年 130,400 人/12h | -      |
| 4  | 今後着手が見込まれる民間再開発事業投資額【8.3】                          | 2019年度 0 円          | 2020年 1,113 億円  | 2030年 5,000 億円      | 22%    |
| 5  | 自立して活動を展開するエリアマネジメント団体数【11.7】                      | 2020年 1 団体          | 2020年 1 団体      | 2030年 6 団体          | 0%     |
| 6  | 地域に愛着を感じている区民の割合【11.7】                             | 2019年 79.4 %        | 2020年 78.4 %    | 2030年 85 %          | -18%   |
| 7  | WEB等を通して発信する、多言語での生活基本情報（転出入手続きやゴミの出し方等）について【16.6】 | 2019年度 10 テーマ       | 2020年度 10 テーマ   | 2030年 30 テーマ        | 0%     |
| 8  | 区内の交通事故発生件数【3.6】                                   | 2019年度 549 件        | 2020年 475 件     | 2030年 500 件以下       | 151%   |
| 9  | 区民ひろばの安全・安心学習プログラム数と延べ参加人数【11.7】                   | 2019年度 2,306 回      | 2020年度 1,609 回  | 2030年 2,500 回       | -359%  |
|    |                                                    | 2019年度 44,620 人     | 2020年度 20,214 人 | 2030年 50,000 人      | -454%  |
| 10 | セーフコミュニティの活動の認知度（考え方や活動を知っている/言葉は聞いたことがある）【17.7】   | 2019年度 32.5 %       | 現状では左記が最新データ    | 2030年 50 %          | -      |

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

| No | 指標名<br>※[]内はゴール・ターゲット番号            | 当初値              | 2021年（現状値）       | 2030年（目標値）      | 達成度（%） |
|----|------------------------------------|------------------|------------------|-----------------|--------|
| 11 | 〇〇（様々なこと）ができる公園整備数【11.7】           | 2020年3月 2 か所     | 2021年3月 4 か所     | 2030年 22 か所     | 10%    |
| 12 | 区内の温室効果ガス排出量の削減（千t-CO2）【11.7、13.2】 | 2015年度 1,647 千 t | 2018年度 1,580 千 t | 2030年 1,102 千 t | 12%    |

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

新型コロナウイルスの影響は災害級の危機とも言われ、本計画策定時から我々の生活様式は大きく変化している。本区が目指す「国際アート・カルチャー都市構想」は「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を掲げ、文化を基軸に都市を再生させ、関わる全ての人のまちへの誇りと愛着を醸成し、人が主役となって次代へ継承していくことを目指している。

社会情勢の変化により、リアルエンターテインメントを活用した賑わいの創出計画は変更を余儀なくされる一方、オンラインやバーチャルプラットフォームなど、本区が有する文化の多様性を活かしたコンテンツが誕生している。目指すべき都市像への進捗指標も柔軟な対応が必要である。

計画当初に設定した「フェスティバル/トーキョーへの来場者数」「池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間」「池袋駅周辺の歩行者数」「区民ひろばの安全・安心学習プログラム数と延べ参加人数」といった指標は、人々の外出を前提としており、コロナ禍で新たな生活様式へと社会環境が変動する中、本区SDGs推進の測定に沿わなくなっている。

本区は『豊島区基本計画』（2016～2025年度）の後期改定に着手している。2022年4月に改訂する当計画で構築する施策や指標等との整合性を保ちながら、『豊島区SDGs未来都市計画』の見直しを検討していく。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

| No | 取組名                                              | 指標名               | 当初値                 | 2018年実績 | 2019年実績 | 2020年実績            | 2022年目標値            | 達成度(%) |
|----|--------------------------------------------------|-------------------|---------------------|---------|---------|--------------------|---------------------|--------|
| 1  | 多様な文化事業の実施（文化を軸とした発信力の強化、来街者の増大に向けて）             | 池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間 | 2019年 116 分/人・日     |         |         | 現状では左記が最新データ       | 2022年 120 分/人・日     | -      |
| 2  | 安全で快適な歩行者空間の拡大（賑わいと人の流れの、まちへの拡大に向けて）             | 池袋駅周辺の歩行者数        | 2017年 112,400 人/12h |         |         | 現状では左記が最新データ       | 2022年 115,100 分/人・日 | -      |
| 3  | 公民連携による子育て支援等の推進（子どもと女性にやさしいまちづくりに向けて）           | 待機児童数ゼロ           | 2019年4月 16 人        |         |         | 2020年4月 0 人        | 2022年 0 人           | 100%   |
| 4  | 公園等の効果的な整備・活用・ネットワークの構築（地域のニーズに応じた公園整備、防災対策に向けて） | 区内公園の占用料および使用料    | 2019年度 55,855 千円/年  |         |         | 2020年度 65,540 千円/年 | 2022年度 60,000 千円/年  | 234%   |

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「国際アート・カルチャー都市構想」は、本区が2014年に指摘を受けた「消滅可能性都市」からの脱却を図るために描かれた。本構想に掲げた「誰もが主役になれるまち」は、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない社会」と軌を一にするものである。

都市構想実現に向け発信や参画等の活動を担う「豊島区国際アート・カルチャー特命大使」は、活動費を自ら負担しながら、自律的な組織運営を目指してきた。「SDGs未来都市」の選定を受け、特命大使は新たな制度「豊島区国際アート・カルチャー特命大使／SDGs特命大使」へと生まれ変わり、本区の持続発展可能なまちづくりのさらなる推進に貢献している。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

本区は一貫して文化を基軸にしたまちづくりを進めてきた。文化はまちに賑わいをもたらし、人の心を豊かにし、平和な社会を創出する。3か年計画である自治体SDGsの推進に資する取組に新型コロナウイルス感染症が与えた影響は大きい。全体計画で掲げた2030年のあるべき姿をしっかりと見据え、本区の強みである文化のまちづくりの観点にぶれることなく、進捗を評価する必要がある。

前ページと同様に、「池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間」「池袋駅周辺の歩行者数」といった指標は、人々の外出を前提としており、新たな生活様式における本区SDGs推進を測るには、不足が生じる指標内容である。

「全体計画(2030年のあるべき姿)」に記載の通り、『豊島区基本計画』改定に合わせて、本計画の指標等の変更を検討していく。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・基本計画への反映など、積極的な分野横断的な取組を進めており、評価できる。
- ・都市でこれまで公園で収益をあげるという発想がないなかで、人口の多い都市の公園の価値を見出したことは評価できる。
- ・消滅可能性都市に指定されたことは豊島区のポテンシャルを考えると適切だったとは思えない。むしろ豊島区の問題は東京における副都心としての競争であり、他との差別化で独自の発展をめざすことが重要である。アートに着目する点はおもしろいと評価できる。
- ・多様な文化を主題にしたSDGsの取組はユニークで、具体的成果も上がっている。さらに、これを支援する事業としての、歩行者空間や公園の整備を通したSDGsの取組も評価できる。
- ・住み続けたいと考える区民の割合についての議論があったが、80%を超える数字はとても高いと感じる。寧ろ、住民のシビックプライドを測定・評価する指標も良いと思料する。
- ・様式2について、文化を軸にしたまちづくりの取組とSDGsの関連性が弱い。本来のSDGsのミッションと関連づけて豊島区の発展をより明確に示されることが望まれる。
- ・池袋が都心の厳しい都市間競争にさらされる中で、アートという特色に目を付けたのは素晴らしいことである。
- ・取組は評価できるが、SDGsの統合的な視点・考えを組み込んでいるか懐疑的である。区内公園の使用料等が公園の整備、環境改善に伴い収入増につながっているとの報告については、しかるべき成果が上がっていると思われるが、SDGsの目標達成への取組みとの関係でより詳しい説明を期待する。
- ・取組が環境面や経済面へ及ぼす効果については、検討を進める余地がある。アートやイノベーションといった要素が新たな企業活動を支援することや、アートを用いて環境問題を市民に可視化する働きかけがあれば良いと思料する。
- ・都市の施設更新にともなうポケットパーク、ネットワーク公園、インクルーシブ公園のマスタープラン等の長期計画と連動して、グリーンインフラ→交流人口→定住人口につながるメカニズムを都市のアートカルチャーとして発展を期待する。
- ・都市のゴミ問題も大きな環境政策になるため、ゴミ問題の視点も取り入れて考えることが望まれる。
- ・アート・カルチャーの要素を媒介として、各事業をうまくつなげることが必要である。各事業は円滑に推進されているので、つなげていければ都市型のSDGsとして機能すると思料する。
- ・自律的好循環の取組が不十分である。結果として、地域事業者や地域金融機関と連携した地域経済活性化の取組が進展していないと思料する。

## 2. 自治体SDGsモデル事業

## (1) モデル事業又は取組名

国際アート・カルチャー都市実現戦略 推進事業

## (2) モデル事業又は取組の概要

「国際アート・カルチャー都市構想」は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていた2020年を中間目標とし、「文化戦略」「空間戦略」「国際戦略」の3つの戦略で実現への道すじを描いた。23のまちづくりプロジェクトの推進などの集中投資によって、劇場都市の舞台は完成をむかえ、まちは大きな変貌を遂げた。今後、SDGsの理念も取り込みながら「ひと」が主役の持続発展可能な都市の実現を目指す。

## (3) 三側面ごとの取組の達成状況

| 取組名                                                                                                                                       | 取組内容                                           | 指標名                       | 当初値              | 2018年実績 | 2019年実績 | 2020年実績          | 2022年目標値        | 達成度(%) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------|------------------|---------|---------|------------------|-----------------|--------|
| ①-1 国際的な舞台芸術祭「フェスティバル・トーキョー」の実施<br>①-2 池袋駅周辺4公園の活用（文化イベントの実施等）<br>①-3 東アジア文化都市の交流都市（中国・西安市、韓国・仁川広域市）との文化交流事業<br>①-4 公民連携により、まちづくり組織の活動を展開 | 賑わい・回遊性の拡大や、歩きたくなるまちづくりといった、公民連携による魅力ある都市空間づくり | 池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間         | 2019年 116 分/人・日  |         |         | 現状では左記が最新データ     | 2022年 120 分/人・日 | -      |
|                                                                                                                                           |                                                | 4公園における自立しているエリアマネジメント団体数 | 2020年 1 団体       |         |         | 2020年 1 団体       | 2022年 3 団体      | 0%     |
| ②-1 総合高齢社会対策の推進<br>②-2 多文化共生の推進<br>②-3 子どもの参加（区内保育施設IKEBUS活用事業）<br>②-4 池袋駅周辺4公園による安心の創出<br>②-5 インクルーシブ公園の整備と園外保育の充実                       | 高齢者の外出促進や、子どもの遊び場など、誰もが安心して楽しめる身近な居場所づくり       | 0～5歳の人口                   | 2020年1月 11,673 件 |         |         | 2021年1月 11,440 件 | 2022年 12,680 件  | -23%   |
|                                                                                                                                           |                                                | インクルーシブ公園の整備件数            | 2020年3月 0 件      |         |         | 2021年3月 3 件      | 2022年 5 件       | 60%    |
| ③-1 グリーンインフラの拡充<br>③-2 低炭素地域社会づくり<br>③-3 協働による環境都市づくり                                                                                     | 既存公園の有効活用や、新技術活用、協働による工夫に取り組んでいる               | 区内の温室効果ガス排出量の削減（千t-CO2）   | 2015年度 1,647 千t  |         |         | 2018年度 1,580 千t  | 2022年度 1,431 千t | 31%    |

## (4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

17のゴールと169のターゲットを設定するSDGsの領域は幅広く、区政においては業務全般がSDGsにつながるものと考えている。SDGs専任部署「国際文化プロジェクト推進室（SDGs未来都市推進担当課所管）」が「経済」「社会」「環境」の三側面を踏まえながら、全庁横断的な情報共有や連携調整を図り、これまでの都市再生による効果や課題等も活かして、文化・教育・福祉・環境など多分野での事業へ展開を進めている。前ページと同様に、「池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間」は、本区SDGs推進を測るには、不足が生じる指標内容である。また、環境面の指標「区内の温室効果ガス排出量の削減」について、本指標も重要と考えているが、最新数値を随時計測できる状態ではなく、環境面に課題を抱える本区として新たな指標の追加を検討していきたい。「全体計画(2030年のあるべき姿)」に記載の通り、『豊島区基本計画』改定に合わせて、本計画の指標等の変更を検討していく。

## 2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

## (1) 三側面をつなぐ統合的取組名

公民連携による都市空間活用プロジェクト

## (2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

本区が目指す「ひと」が主役の「SDGs未来都市」は、巨大ターミナルである池袋駅を中心とした水平開発の広がり、「ひと」を「まち」へと呼び込むワークブルなまちづくりを推進する。池袋の価値の向上の波及効果で、豊島区全体の価値が向上していく。特に池袋駅周辺の特色ある4つの公園とそれらをつなぐ真っ赤な電気バス「IKEBUS」をモデル事業に据え、「SDGs未来都市」の推進を先導していく。

## (3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

| 経済⇔環境                                                                                        | 経済⇔社会                                                                       | 社会⇔環境                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【経済→環境】</b><br>まちの賑わいが生む収益により、公園等の環境整備<br><b>【環境→経済】</b><br>公園整備や「IKEBUS」運行により、来街者や定住者を増加 | <b>【経済→社会】</b><br>まちの賑わいにより、新たな文化が誕生<br><b>【社会→経済】</b><br>文化の魅力発信により、来街者が増加 | <b>【社会→環境】</b><br>グリーンローモビリティにより、交通環境を整備<br><b>【環境→社会】</b><br>緑あふれる環境整備により、定住意欲の向上 |

## (4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

| No | 指標名                                                   | 当初値       | 2018年実績      | 2019年実績 | 2020年実績       | 2022年目標値 | 達成度(%)        |          |      |
|----|-------------------------------------------------------|-----------|--------------|---------|---------------|----------|---------------|----------|------|
| 1  | 【経済→環境】<br>公園利用者数（対象3公園）                              | 2020年2月平日 | 6千人/日        |         | 2020年度平日      | 5.6千人/日  | 2022年度平日      | 6.6千人/日  | -67% |
|    |                                                       | 2020年2月休日 | 12千人/日       |         | 2020年度休日      | 11.8千人/日 | 2022年度休日      | 13.2千人/日 | -17% |
|    | 区内公園の占用料および使用料                                        | 2019年度    | 55,855千円     |         | 2019年度        | 65,540千円 | 2022年度        | 60,000千円 | 234% |
| 2  | 【環境→経済】<br>池袋駅周辺の歩行者数                                 | 2019年     | 112,400人/12h |         | 現状では左記が最新データ  | 2022年    | 115,100人/12h  | -        |      |
|    | 池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間                                     | 2019年     | 116分/人・日     |         | 現状では左記が最新データ  | 2022年    | 120分/人・日      | -        |      |
| 3  | 【経済→社会】<br>「多様な文化芸術活動が展開され、良質な文化芸術に接する機会が多い」と考える区民の割合 | 2019年度    | 40.6%        |         | 2019年度        | 42.5%    | 2022年         | 45.0%    | 43%  |
| 4  | 【社会→経済】<br>区の新設法人数（四半期平均）                             | 2019年度    | 375社         |         | 2020年度        | 352社     | 2022年         | 400社     | -92% |
| 5  | 【社会→環境】<br>IKEBUS利用者数                                 | 2020年1月   | 13,000人      |         | 2020年（1-3月平均） | 7,050人   | 2022年（1-3月平均） | 22,500人  | -63% |
| 6  | 【環境→社会】<br>住み続けたいと考える区民の割合                            | 2019年度    | 82.2%        |         | 2020年度        | 80.9%    | 2022年         | 85.0%    | -46% |

## (5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

「豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使」をはじめ、区民・区内団体・区内企業がこのまちに魅力を感じるファンベースの展開を図っている。区内外の企業や団体等への徹底したプロモーションを図り、あらゆる投資機会や参画機会を受け止め、関係機関との連携や調整等の役割を果たしている。

## (6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

公民連携による都市空間活用プロジェクト「池袋駅周辺4公園を核としたまちづくり」では、利用実態及び回遊状況調査の実施、エリアの特徴や地域活動組織のあり方の検討を実施した。集客イベントの多くが中止になる中、公園を活用したコンテンツの投資や関心は高まっている。徹底した感染症対策のもと「グローバルリング」では野外クラシックコンサート開催をした。一方、地域住民等と直接の意見交換は実施が出来ず、地域活動組織の拡充には至っていない。

その広がりを目指し取り組んだ「区内の中小規模公園活用」では、公園ニーズ調査、公園管理手法検討、モバイル遊具等の検証及び導入などを実施した。「井戸端かいぎ」など住民が集まるイベントは開催できなかったが、感染症対策を行い少人数のグループで出来ることから事業実施を試みている。今後の社会情勢を見据えながら住民参画事業の再開を検討していく。

前ページと同様に、「池袋駅周辺の歩行者数」「池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間」は、本区SDGs推進を測るには不足が生じる指標内容である。加えて、「公園利用者数」「IKEBUS利用者数」も、同様に見直しが必要と考えている。一方で、「区の新設法人数」「住み続けたいと考える区民の割合」については、進捗は順調ではないが、今後も重視していくべき指標と考えており、様々な施策展開を通じて前進させていく。

「全体計画(2030年のあるべき姿)」に記載の通り、『豊島区基本計画』改定に合わせて、本計画の指標等の変更を検討していく。

## 2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

## (7) 有識者からの取組に対する評価

- ・文化戦略、空間戦略、国際戦略の活動目標は、SDGsの理念と整合するもので、一層の具体的成果があがることを期待する。
- ・これらの戦略を受けて、地域経済の活性化に貢献する取組の推進を期待する。
- ・covid-19のもと、新設法人数が352社を保っているというはよく進んでいるという評価できる。
- ・公園ネットワークの活用、イベントの来客数等を用いて、コロナ感染の状況を見つつ確実な評価を期待する。
- ・インクルーシブ公園の整備について件数に加えて、利用者、交流活動などの客観的な評価を期待する。
- ・「国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使」の各活動の実績状況の把握をどの様に行っているのか。また、これら活動をどの様に評価していくのか、方針について説明が望まれる。
- ・住み続けたいと考える区民の割合が減っているが、その要因をしっかりとらえる必要があると思われる。場合によっては十分な値にあるとも考えられるかもしれない。特に若年層が流入してくると必ずしも住み続けたいのではなく、今の魅力にひかれていただけの人も多いと推察される。